

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4121	施策名	特色をいかした農業に取り組むまち	主 担 当 課	農政水産課
大項目	活気あるまちづくり				
基本 方針	干拓地など市の特色をいかした農業の振興を目指します。また、農業は、食料生産だけでなく、国土や自然環境の保全、良好な景観形成などの役割を果たしています。農業の担い手の確保や育成、効率的、安定的な農業を実現するための農業用施設の整備や各種支援対策を推進します。 農業上の利用を確保する必要がある集団性、連続性がある農用地については、保全・有効利用、農業生産基盤の整備を進め、効率のよい土地利用を図ります。 また、「道の駅」「ふれあい青空市」を農業振興のための直売施設として利用します。 森林の計画的維持管理や、有害鳥獣への対策を進めます。			関 係 課	干拓調整課
					建設事業課
					経済観光活性課

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	道の駅整備・運営事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
国道2号笠岡バイパス利用者及び道の駅利用者			道の駅の目的である休憩・道路情報の提供だけでなく、地元、笠岡市の新鮮な野菜・魚介類等の販売、地元食材を使った食事の提供、観光情報など、笠岡の良さを広範囲にPRできる一大情報発信基地とする。			①地域振興施設として道の駅を運営する。 ②道の駅周囲の農地を利用して景観作物を咲かせ、また、農業体験施設等でイベントなどを開催する。 ③道の駅の利用者を二次的に笠岡市内の施設及び飲食店等へ誘客し、経済効果を図る。						
平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			
取組内容	○道の駅整備 ・景観作物の作付 ・イベントの実施 ・新聞折込チラシの配布 ・施設の整備・管理 ・ツアーの実施			⇒			⇒			⇒ ・道の駅南側の圃場への排水溝の設置 ・道の駅北側の圃場への展望台通路の設置		
直接事業費	決算額	41,586	千円	決算額	39,347	千円	決算額	35,595	千円	決算額	33,717	千円
	うち一般財源	27,849	千円	うち一般財源	33,961	千円	うち一般財源	35,595	千円	うち一般財源	33,717	千円

2	農業振興事業														
事務事業の目的						事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)													
農業者新規就農希望者		農業者の規模拡大、経営の効率化を図る。 新規就農者により農業人口を増加させる。				認定農業者制度を活用した農家の育成 干拓地を生かした大規模農業の推進									
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度					
取組内容	○農産物のブランド化 ○認定農業者認定・支援事業 ○担い手確保・育成・支援事業 ○新規就農者支援事業 ○耕作放棄地解消事業 ●農道離着陸場の多面的利用			⇒			⇒			⇒					
							●農道離着陸場の多面的利用 延べ日数 267日			●農道離着陸場の多面的利用 延べ日数 193日					
直接事業費	決算額	16,656	千円	決算額	16,286	千円	決算額	16,674	千円	決算額	13,321	千円			
	うち一般財源	10,797	千円	うち一般財源	11,892	千円	うち一般財源	13,082	千円	うち一般財源	10,209	千円			

3	農業用施設新設改良事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
農業従事者及び関係者		農産物生産の向上と安定化及び農地の保全			ため池、井堰、用・排水路の整備及び農道の新設改良を行うための計画、調査、設計、積算、工事監督を行う。							
取組内容	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	●農業用施設改良事業 ・単市土地改良事業 ・非補助かんがい排水事業 ・非補助ため池補強事業 ・非補助農道改良事業			●農業用施設改良事業 ・小規模かんがい排水事業 ・単市土地改良事業 ・非補助かんがい排水事業 ・非補助ため池補強事業 ・非補助農道改良事業 ・非補助農道舗装事業			●農業用施設改良事業 ・非補助農道改良事業 ・非補助農道舗装事業 ・非補助かんがい排水事業 ・単市土地改良事業			⇒ → → → → ・団体営かんがい排水		
直接 事業費	決算額	79,424	千円	決算額	118,416	千円	決算額	76,894	千円	決算額	73,469	千円
	うち 一般財源	1,306	千円	うち 一般財源	6,688	千円	うち 一般財源	45,115	千円	うち 一般財源	7,905	千円

4		畜産業振興事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
干拓地内の畜産農家		・定期的な環境巡回調査を行い、適切な糞尿処理や水質浄化を指導する。 ・干拓地臭気対策チームによる検討会を開催し、干拓地内の糞尿や堆肥による悪臭対策を検討する。 ・バーラー排水などの畜産排水について、現状把握と排水対策を検討し、浄化施設の設置に向けて検討を行う。				・環境巡回指導 ・干拓地内における悪臭対策の検討 ・干拓地内における畜産排水浄化処理施設設置の検討							
		平成23年度		平成24年度		平成25年度			平成26年度				
取組内容	●排水浄化施設設置の推進 ●環境巡回指導		⇒		●環境巡回指導 ・県と合同による環境巡回指導の実施。 ・干拓地臭気対策チームによる悪臭対策の具体化 先進地事例の研究や堆肥実験などによる悪臭対策の具体化。 ●排水浄化施設設置の推進 施設設置のための方策を検討。			●環境巡回指導 ・県と合同による環境巡回指導の実施。 ・干拓地臭気対策チームによる悪臭対策の具体化。 先進地事例の研究や堆肥実験などによる悪臭対策の具体化。 ●排水浄化施設設置の推進 施設設置のための方策を検討。 ●共同堆肥舎の増築 平成26年度で完成し、完熟した良質な堆肥を生産し、悪臭発生を低減する。 ●粗飼料基地農地の整備 H16の高潮被害の際、ゴミ搬入・焼却作業のため敷かれた砂利を撤去し、作付け可能な農地に復元した。					
	直接事業費	決算額	15	千円	決算額	8	千円	決算額	13	千円	決算額	10,855	千円
	うち一般財源	15	千円	うち一般財源	8	千円	うち一般財源	13	千円	うち一般財源	7,855	千円	

5	バイオマスタウン推進事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地の特性を生かしたバイオマス資源の利活用を図りながら、地域農業の活性化を目指すとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。			笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想のもと、バイオマス資源の利活用について、産学官による協議を行い、バイオディーゼル燃料(BDF)の干拓地利用などに取り組む。							
平成23年度		平成24年度			平成25年度		平成26年度					
取組内容	・BDFの干拓地内利用の調査検討 ・バイオエタノール情報の収集 ・共同堆肥舎の増設検討 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験			・BDFの干拓地内利用の試行 ・バイオエタノール情報の収集 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験		・BDFの干拓地内利用 ・バイオエタノール情報の収集 ・共同堆肥舎増設の検討 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験		・BDFの干拓地内利用 ・バイオエタノール情報の収集 ・共同堆肥舎増設手続きの支援 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験				
直接 事業費	決算額	5,195	千円	決算額	3,234	千円	決算額	3,934	千円	決算額	160	千円
	うち 一般財源	1,071	千円	うち 一般財源	628	千円	うち 一般財源	429	千円	うち 一般財源	160	千円

6	笠岡湾干拓地水質浄化対策事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
笠岡湾干拓地 営農者 市民			笠岡湾干拓地の水環境を改善する取組を行うとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。			バイオマスタウン構想と連携し、農業関係者、市民及び行政が連携して環境負荷の低減に努め、干拓地の水質保全対策の推進を図る。							
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			
取組内容	・負荷削減活動の推進 ・耕畜連携による堆肥の適正処理 ・茂平地区下水道の整備 ・パーラー排水等処理施設の検討			・負荷削減活動の推進 ・耕畜連携による堆肥の適正処理 ・茂平地区下水道の整備			⇒			⇒			
直接 事業費	決算額	1,066	千円	決算額	729	千円	決算額	337	千円	決算額	193	千円	
	うち 一般財源	566	千円	うち 一般財源	365	千円	うち 一般財源	137	千円	うち 一般財源	193	千円	

7	森林保全事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
森林所有者及び 周辺住民 農林業者等					松くい虫による被害防止とともに、森林資源の保全と国土の保全を図る。 農作物の被害の防止及び生活環境の改善。 ・ヘリコプターによる薬剤の空中散布及び地上散布。また、空中・地上散布区域周辺の伐倒駆除及び道路沿いの危険木処理。 ・有害鳥獣の駆除。							
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	●松くい虫被害防止 ・薬剤の空中散布及び地上散布を行う。 空中散布180ha 地上散布3ha ●有害獣被害防止対策事業 ・有害獣による農作物の被害防止のための柵等の設置に補助金を支給する。 補助件数17件 合計補助金額395,771円			●松くい虫被害防止 ・薬剤の空中散布及び地上散布を行う。 空中散布180ha 地上散布3ha ●有害獣被害防止対策事業 ・有害獣による農作物の被害防止のための柵等の設置に補助金を支給する。 補助件数15件 合計補助金額308,566円			●松くい虫被害防止 ・薬剤の空中散布及び地上散布を行う。 空中散布180ha 地上散布3ha ●有害獣被害防止対策事業 ・有害獣による農作物の被害防止のための柵等の設置に補助金を支給する。 補助件数16件 合計補助金額327,833円			●松くい虫被害防止 ・薬剤の空中散布及び地上散布を行う。 空中散布174ha 地上散布3ha ●有害獣被害防止対策事業 ・有害獣による農作物の被害防止のための柵等の設置に補助金を支給する。 補助件数12件 合計補助金額169,823円		
直接 事業費	決算額	9,913	千円	決算額	10,922	千円	決算額	11,424	千円	決算額	10,415	千円
	うち 一般財源	6,140	千円	うち 一般財源	7,582	千円	うち 一般財源	7,936	千円	うち 一般財源	7,098	千円

8	農業用施設維持管理業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
農業用施設利用者		農業用施設利用者が安全・安心して利用できるようにする。				・農林水産業施設管理事業 ・農林水産業施設維持事業 ・農林水産施設(単独)災害復旧事業						
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	・排水機場施設の老朽箇所の修理			⇒			・排水機場施設の老朽箇所の修理 ・ため池点検			・排水機場施設の老朽箇所の修理(寺間排水機場3号原動機, 原動機NO.4シリンダヘッド, 2号二次冷却水ポンプ) ・ため池点検(111箇所)		
直接事業費	決算額	199,163	千円	決算額	112,977	千円	決算額	93,861	千円	決算額	138,907	千円
	うち一般財源	116,144	千円	うち一般財源	93,355	千円	うち一般財源	65,345	千円	うち一般財源	99,459	千円

9	農業振興地域整備関連業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		農業振興地域整備計画を見直し、都市的土地需要との土地利用調整を行う。				農業振興地域の整備に関する法律(昭和44年法律第58号)に基づき、国・県及び市町村が一体となって農業振興を図るべき地域の整備や保全を図る。							
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			
取組内容	○農業振興地域整備事業 ・整備計画に沿った適正な農地利用の促進			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	212	千円	決算額	186	千円	決算額	192	千円	決算額	203	千円	
	うち一般財源	212	千円	うち一般財源	186	千円	うち一般財源	192	千円	うち一般財源	203	千円	

10	農業委員会業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		農業生産の基盤となる優良農地の保全, 有効利用するための取り組み, 耕作放棄地, 遊休農地の解消				農業委員会の開催(12回)。農地法に基づく農地の利用状況等調査等。農地法関連業務。広報紙等による啓発。農業者年金制度の普及啓発。						
取組内容	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	●農地法の厳格な運用 ●農地利用状況調査の実施			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	10,655	千円	決算額	10,076	千円	決算額	11,289	千円	決算額	15,233	千円
	うち一般財源	6,840	千円	うち一般財源	6,262	千円	うち一般財源	7,517	千円	うち一般財源	9,225	千円

<3.施策の直接事業費(2の合計)>

① 施策の直接事業費(その内訳)								
平成23年度			平成24年度		平成25年度		平成26年度	
直接事業費	363,885	千円	312,181	千円	250,213	千円	296,473	千円
うち一般財源	170,940	千円	160,927	千円	175,361	千円	176,024	千円

<4.指標>

指 標 名				目標・実績の推移					
				H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 実績	H26 実績	H29 目標
1	認定農業者数	単位	目標				105	105	105
		人	実績	112	110	101	102	97	
			達成率				97.1%	92.4%	
2	新規就農者(社)数	単位	目標				3	3	3
		人	実績	1	1	4	3	1	
			達成率				100.0%	33.3%	
3	ブランド化作物作付面積(累計)	単位	目標				60	60	80
		ha	実績	52	52	52	116	116	
			達成率				193.3%	193.3%	
4	耕作放棄地の解消面積	単位	目標				500	500	500
		a	実績	670	10	159	28	8	
			達成率				5.6%	1.6%	
5	牛の飼養頭数	単位	目標				6,836	6,850	6,900
		頭	実績	6,713	6,794	6,919	6,846	6,637	
			達成率				100.1%	96.9%	
6	有害獣防護柵設置の補助件数	単位	目標				20	20	30
		件	実績	10	17	15	16	12	
			達成率				80.0%	60.0%	
7	有害鳥獣駆除件数(イノシ・ヌートリア合計)	単位	目標				210	210	210
		匹	実績	196	209	192	155	192	
			達成率				73.8%	91.4%	
8	直売所売上額(「道の駅」・JA)	単位	目標				620,000	660,000	650,000
		千円	実績	161,289	490,251	575,358	611,609	685,927	
			達成率				98.6%	103.9%	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
・農産品の加工による高付加価値化を目指す必要があり、それに基づいたネット通販事業等も販売の仕組みとして考える必要があると思います。	→ 農産品の加工は、未利用品の活用を可能とし単価を上げ消費期限を延ばしパッケージングの自由度を上げ場合によっては輸送費の削減に寄与するなど様々な利点が考えられ、これからも積極的に推進すべき分野であると考えます。 ネット通販はここ数年で急速に認知度を増し日常生活に著実に浸透しつつあります。それに伴い楽天等ネット通販運営会社は利用しやすさをより高め低価格化競争を行い個人を含む小規模経営者の参入を促してきました。その結果現在ではネット上の販売者・商品は飽和状態となり、現実の店舗同様、同じ品なら宣伝力・価格競争力のある大企業がより有利に展開し、個人・小規模経営ではほとんど儲けにならないという見方もあります。 最新の技術を取り入れあらゆる手段を検討することは必要ですが、扱うのがよい商品であるというだけでは販売にはなかなか結びつかず、根底には企画力・宣伝力が求められることもまた現実の店舗と同様です。後発者が戦っていくために必要なブランド確立に向けた方針の樹立とノウハウの蓄積を、前段階として進めてまいります。
・道の駅の整備・運営事業の取り組みにより、観光客が増加しており、非常に素晴らしいことだと考える。しかし、国、県等の関係が困難な面もあると考えるが、農業振興だけでなく、商業の活性化等、横の連携もしていただきたい。	→ 道の駅をご利用のお客様が笠岡市内で2次、3次的な経済効果を生みだせるべく施策を講じてまいります。たとえば、平成25年度から「笠岡ぐるっと博」を実施しており、笠岡市内の飲食店を中心に61店舗が参加して、お店を利用されたお客様にスタンプラリーを楽しんでいただき、笠岡市の特産品をプレゼントするイベントを開催しております。さらに、「笠岡ラーメン」の宣伝にも努めております。今後も、干拓地の農業体験ツアーなどを検討し、道の駅が観光のプラットフォームとなり、さらなる経済効果を生みだせるべく施策に努めてまいります。
・干拓地から発生する悪臭の早期解決を望む。	→ 笠岡湾干拓地には15戸の畜産農家があり、乳用牛、肉用牛合わせて約6,300頭の牛が飼育されています。これら農家から生産される堆肥及び農地への堆肥散布により生じる悪臭対策について検討することを目的とし、平成24年度から庁内関係部署による「笠岡湾干拓地臭気対策チーム」を結成し、その検討を行っています。 具体的には、①堆肥へえひめAI-2やコーヒークリなどの添加物を混ぜ発酵促進と消臭効果検証の実験を行う②手狭になった共同堆肥舎の増築を行い良質な堆肥を生産する③定期的な環境巡回調査を行い農家の指導にあたる、などを行っています。 平成26年度末で共同堆肥舎の増築工事が完了し、堆肥の発酵促進と消臭効果を目的とした添加物の実用化に向けて検討を行ってまいります。

・地域ブランドを発展させるためにも、農業、漁業、林業、工業、商業、その他特色のある各業を融合させた場を以って進めていかなければ市民の総意として、特色を生かすことはできないと思います。部を越えた協同を希望します。	地域ブランドを確立していくためには、地域に住む人々が自らの地域に誇りと愛着を持つ必要があります。現在、地域住民、生産者、商工業者等多くの関係者が参加する「かさおかブランド協議会」におきまして、市民参画、協働のもとに、笠岡青年会議所が事務局となり積極的に事業を進めております。笠岡市も経済観光活性課職員をはじめ、関係課の職員が参加し共に活動いたしております。今後、活動の進捗状況により、さらなる関係課の協力を求めてまいります。 → あわせて、平成26年3月に産業振興ビジョンを策定し、この産業振興ビジョンの具体的施策を計画的に実施するために4月にかさおか新しいごとづくりセンターを建設産業部に設置しております。センターでは、企業誘致、中小企業振興、起業支援に加えて、笠岡ブランドの推進や農林水産業の6次産業化や観光振興にも取り組むこととしており、まさに、各業を融合させた施策の推進を目標に事業展開をしていきたいと考えます。
--	--

<6.平成26年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
---------------	--	----------

<7.施策の課題と改善案>

課題と改善案	農業振興事業 あらゆる機会を利用して農産物のPRを行う。 農産品のブランド化を倉敷かさや農協と連携して進める。 畜産業振興事業 (課題)施設の老朽化が進行し、改良が必要な農業用施設が多いが、受益地の農業従事者の高齢化や減少により、改良事業費に対する受益者負担金が足かせとなり、工事の着手に至っていない。 (改善策)必要最小限の箇所の施工等、発注方法を検討することで負担の軽減を図り、工事の着手を促進する。 干拓地臭気対策の更なる具体化により、悪臭解決を目指す。平成26年度の共同堆肥舎増築により、干拓地悪臭対策の実用化を目指すとともに、引き続き、干拓地臭気対策検討チームで堆肥等による悪臭対策の先進事例を研究する。また、干拓地内の水質浄化のためには、畜産排水(パーラー排水)浄化処理施設の設置が望まれるものであり、21年度の検討結果に基づいて低コストで有効な施設設置の方策を引き続き検討していく。 森林保全事業 松林の保全では、その現状の把握が重要である。専門的知識を有する県との連携を緊密にし、空中散布及び地上散布は常に松林の現状を把握した上で、薬剤の変更を含め効果的な予防を実施する。一方で松枯れ地域においては除去を速やかに行い、周囲への松枯れの拡散を防止し、予防と除去の両方で効果的な松林の保全に努める。 有害鳥獣被害は多様化・広域化しているが、駆除の主体となる猟友会駆除班は高齢化が進み、対応への不安が現実のものとなりつつある。このため被害への即応体制を充実させるべく有害鳥獣対策チームを増員する。被害調査及び捕獲駆除における猟友会駆除班との連携を緊密にし、的確な対応を実施するとともに、猟友会駆除班を補完する役割として、チーム員の捕獲駆除技術の向上を図る。 農業振興地域整備関連業務 見直された都市計画との整合性を取りつつ、計画の年次の見直しを行う。 また、平成28年度を目途に農業振興地域の見直しを行う。 農業委員会業務 許可案件のその後の利用状況についての検証を引き続き確実に行う。 継続的に現地調査を行い実情の把握に努め、無断転用等に対し迅速に対応する。 農業用施設新設改良事業 (課題)施設の老朽化が進行し、改良が必要な農業用施設が多いが、受益地の農業従事者の高齢化や減少により、改良事業費に対する受益者負担金が足かせとなり、工事の着手に至っていない。 (改善策)必要最小限の箇所の施工等、発注方法を検討することで負担の軽減を図り、工事の着手を促進する。
---------------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	B
コメント	・農産品の特徴(たとえば、栄養素等)を生かしたブランド化可能な基準作りが必要と考えられます。たとえば、果物などの糖度が一定水準以上などが考えられます。 ・道の駅の利用者を市内の施設や飲食店等へ誘客できるようなPRIに力を入れていただきたい。			